



持孔の由安著者以後の是
由清之通一系東の如く以
来如何に由新静と云ふ哉

首の世藩家の書三庫は家由茶

見と成り哉木田郡古有松

村揚小三郎此の子曾て早大に在り冰上村大西

切禮香川郡川原村武下隆大

郎此の同族藤原雄系いれ香城市を以て

こと遠わらう多少の花書者有之

由一序に由一宮月は如視不出給

木幾次郎此の早大木村照光の同族

の記若干在り我改し居り同市田

町中川付平高馬琴此の早大黙光に

特に贈りし手紙の若逆在り我改し此等

由都令に由一院は尤之狭隘之地に

是達家の歎格別のりは無之哉

故らに平上は是無之と云ふ一寸田心者候

得貴意は濠山濠水馬思入其

不堪惆悵此の早大先は此に

は如何に帰京の上ねせし此の早大

伺ふ事其衆に居り此の早大時下相角は瑞

中は自自重みと云ふ

五月念一日 謙

妻 坂元 吉三

白筆

乍得首の主人は一序の如く
是を引列す

牧野の次子

